

『AI／人生100年』という新しい時代 —— だからこそ、 『一身二生』という新しい生き方をする

時代観

- 『IT革命 & 寿命革命』によって生まれた『AI／人生100年』の時代。それに加えて、私達は「人口縮小 & 高齢化」（=社会の縮小&老化）の非常事態が深刻化していく“右肩下がりの社会”の中を生きている
- 「年金制度を存続させる」ことを前提に考えると、既に『75歳や80歳まで働く』社会が始まっている
- 「右肩上がりの幸せな人生」を実現したい。そのため、『一身二生』という先進的な生き方をする

長丁場の『100年ライフ』（=男性95年／女性100年）—— だからこそ、
ゴールで「ああ、いい人生だった！と思える」ことを「人生の目的」として生きる

人生観

- 「人生の目的」を判断軸とし、「自分の幾つもの役割」（=パートナー／職業人／一社会人として）を果たす
- 『後半戦』（=二回目の人生）は「幸福の総量」（=Well-being + Well-doing）を右肩上がりに積み上げ、『ピークエンド』（=「幸福の総量」の最大化：「終り良ければすべてよい」という人生の法則）を目指す
- 「生きる力／自分らしい人生をデザインする力／日々の生活を楽しむ力」を磨き上げる「アート思考」と、『健康寿命100歳』にアプローチする「生命科学」（=ライフサイエンス）を学び続ける

本番となる『後半戦』（=二回目の仕事人生&人生）—— だからこそ、
社会に恩返しする『社会の人材』となって次世代を支援し、持続性のある社会を目指す

仕事観

- ◆ 「後半勝負」化する仕事人生&人生、本番は55歳からの『後半戦』（=二回目の仕事人生&人生）である
- ◆ 「Well-doing：自己承認と獲得」主体の「前半戦」に対し、『後半戦』は『社会の人材=Well-being 主体：他者支援と貢献』となって、自分の居場所と役割を作る「先進的な生き方・働き方」をする
- ◆ 人間究極の仕事は「ゴールまでしっかり生きること」であり、人間本来の役割は「周りの人や次世代の役に立つこと」という「仕事観／役割観」（=人生哲学）を持つ